

# 保育学生におけるマイクロティーチングの学習効果に及ぼす 協同作業認識と課題価値の影響 —交互作用に着目して—

金子智昭 (埼玉純真短期大学)

キーワード：マイクロティーチング，協同作業認識，課題価値

## 問題と目的

保育者養成課程において、マイクロティーチング（以下、MT）を導入することの有効性が支持されているものの（e.g., 金子, 2013）, MT の有効性を規定する心理変数やそのプロセスに関しては十分に検討されているとは言えない。そこで本研究では、学生の「協同作業認識」と「課題価値」の 2 つの認知変数に着目し、MT の学習効果に及ぼす影響性を交互作用も含めて詳細に検証する。

協同作業認識とは、学習者の協同作業に対する潜在的な信念であり（長濱他, 2009）, MT は学生同士の協同学習を基盤に展開されることから、変数に取り上げた。一方、課題価値は学習者の学習内容に対する価値認識である（Wigfield & Eccles, 2000）。MT に至るまでの講義内容に対する価値やコストの認識は、その後の MT の効果を規定すると考えられることから、変数として取り上げた。

## 方 法

**対象者及び手続き** 埼玉県内の保育者養成系の女子短期大学の 1 年生 127 名（4 クラス）を対象に、質問紙調査を 2 回実施した。MT は、2017 年 9 月から 2018 年 11 月にかけて、「幼児教育課程論」の演習形式の講義の一環として、最後の 5 コマを使用して行われた。第 1 調査は MT の初回の講義（11 コマ目）の冒頭の時間を活用して行われ、第 2 調査は MT の最終講義（15 コマ目）の時間を活用して行われた。分析は、第 1 調査と第 2 調査の両方に回答した 109 名をサンプルとした。

**調査内容** 第 1 調査の内容は、(a) 協同作業認識尺度（長濱他, 2009）の 3 下位尺度（協同効用、個人志向、互惠懸念）の 18 項目（5 段階）、(b) 価値の測定として、課題価値測定尺度（伊田, 2003）の 5 下位尺度（興味価値、私的獲得価値、公的獲得価値、実践的利用価値、制度的利用価値）の 29

項目（7 段階）、(c) コストの測定として、「コスト尺度」（解良・中谷, 2016）の 3 下位尺度（努力コスト、機会コスト、心理コスト）の計 11 項目（7 段階）を「幼児教育課程論」の文言に変更したものである。第 2 調査の内容は、MT 有効性尺度（金子他, 2018）の 5 下位尺度（保育者としての自覚と指導技術、学習状態の認識と学習意欲、指導の難しさ、幼児理解、指導案の書き方）の 29 項目（4 段階）である。

## 結果と考察

初めに確認的因子分析を行った結果、協同作業認識は「個人志向・互惠懸念」と「協同効用」の 2 因子、課題価値は「興味・獲得価値」と「利用価値」の 2 因子、コストは「コスト」の 1 因子が適切であると確認された。MT の有効性は、既存尺度と同じ 5 因子が確認された。

次に、MT の学習効果の各変数を従属変数、センタリング処理を行った協同作業認識と課題価値を独立変数とする階層的重回帰分析を行った。その結果、協同効用と利用価値は MT の学習効果に正の影響を与えていることが示された。また、「コストと個人志向・互惠懸念」、「利用価値と協同効用」において交互作用が確認されたため、単純傾斜検定を行った。その結果、個人志向・互惠懸念が高い学生において、コストは MT の学習状態の認識と学習意欲にポジティブな影響を与えることが示された。個人志向・互惠懸念が高い学生は、コストへ過敏に反応し、コストに伴う個人的損失への回避動機が強く働いたことで、MT への学習動機づけが高まった可能性が考えられる。個人志向・互惠懸念が高い学生に対しては、個別の課題を与えたり、集団内の役割を明確化したりするなどのコストを付与することが、動機づけを高めるうえで有効であるのかもしれない。